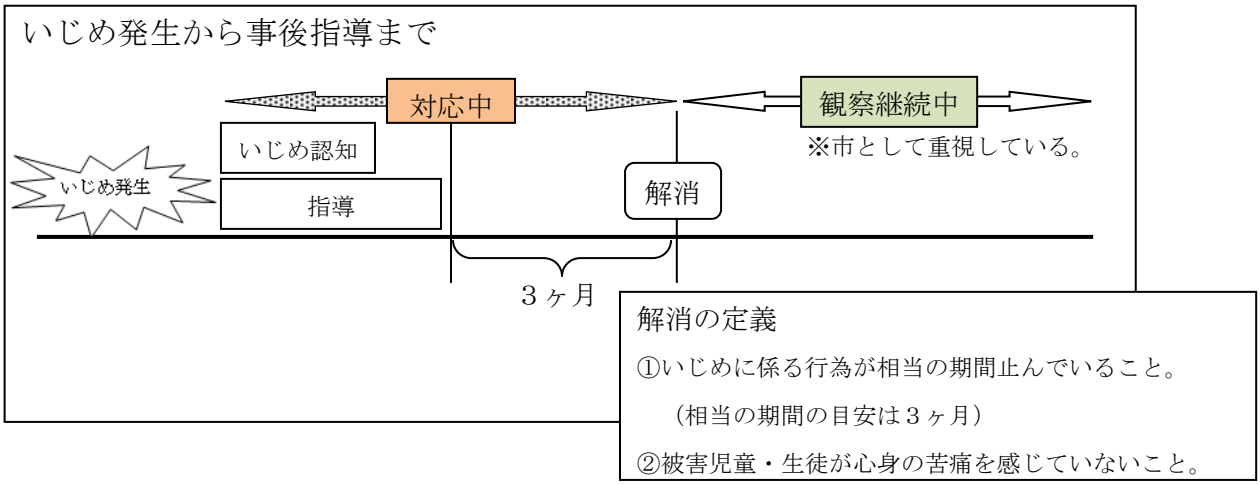
小・中学校におけるいじめの実態について

年度	H27		H28		H29		H30		R１.4～12月	
校種	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
認知件数	12	36	33	39	35	47	66	71	158	63
対応中 （解消に向けて取組み中）	3	3	0	0	9	8	13	13	67	29
観察継続中	9	33	33	39	26	39	53	58	91	34

日高市立小中学校暴力行為・いじめ・長期欠席調査より



いじめの認知について、日高市教育委員会では生徒指導担当者による学校訪問や生徒指導主任研修会において「いじめの疑いも含めて積極的な認知」を指導している。その結果、令和元年度４～１２月のいじめ認知件数は、小学校では過去最大であった昨年度を上回った。中学校では昨年度に迫る認知件数であった。各学校がいじめに対して、被害児童生徒の立場に立った対応を組織的に行った結果ととらえている。

いじめの態様については、小学校で約５割、中学校では７割以上が「冷やかしやからかい、悪口、文句等」であり、口頭によるものが最も多い。また、全国と比較して、小学校では「金品を隠される、盗まれる等」が多く、中学校では「ひどくぶつかられる、たたかれる、蹴られる」、「金品を隠される、盗まれる等」、「パソコンや携帯等での、ひぼう・中傷等」が多い。「その他」は、小学校では「一緒に下校してくれなかった」、「内容を忘れてしまった」「(物を）貸してとしつこく言われた」等、中学校では、「靴ひもがほどけていた」「下校時、荷物を持たされた」「掃除をやらされた」等であった。

いじめの発見のきっかけの多くが「調査で発見」となっており、定期的に実施しているアンケート調査が有効であることが分かる。また、「学級担任」が発見した割合が、平成３０年度に比べ、小学校で２．７ポイント、中学校で７．９ポイント高くなった。いじめの認知漏れをなくし、いじめ解消率１００％を目標とし、すべての児童生徒が安心して学ぶことができる学校とするための取り組みが重要となる。